

松江藩松平家の女性たち

2015年10月17日 石田俊

●近世武家社会の女性

・表と奥の分離【長野 2003】

【史料1・2】江戸城大奥の法制

17世紀半ば～後半に幕府・朝廷・諸大名で奥の法制が發布→奥の分離・特殊化が進展

・参勤交代と江戸

参勤交代により大名は江戸と国元を一年ごとに往復、妻子は原則として江戸居住

※江戸には将軍はじめ、大名とその家族が集結

→江戸での交際と立ち居振る舞いが「家」の「外聞」を決め幕府との関係を大きく左右

・大名家の奥と大名正室

武家屋敷の空間構造 表：表向の政治や儀礼

奥：主君の日常生活の場としての奥（いわゆる中奥）

女性の生活空間としての奥（いわゆる大奥）

※大名正室はこのトップ

大名正室の役割（1）大名の子供（特に嫡男）を産み、奥女中とともにそれを育てる

（2）公的存在として将軍家・他大名・家中と儀礼関係を取りむすぶ

※領国統治をはじめとする表向の政治にはかかわらない

cf 薩摩藩の事例：島津継豊隠居内願ルート【松崎 2012】

竹姫（継豊室、徳川綱吉養女）⇔竹姫附老女⇔江戸大奥老女⇔吉宗

隠居・婚姻など「家」に関わる情報伝達の内証ルートとして機能

「家」の安定的継承（+家格の上昇）のためには、将軍家と良好な関係を維持する必要

→将軍家とつながりを持つ正室を通じたルートは貴重

●天岳院とは

天岳院（岩宮）：松平宣維室（1699～1738）

松平宣維：松江藩五代藩主（1698～1731）

【表1】松平宣維・天岳院略歴

当時の徳川幕府：将軍徳川吉宗、世嗣徳川家重

天岳院の特徴 ①将軍家の親族（将軍世嗣家重の義姉）【表2】比宮結納祝儀

②「御家の危機」における松江松平家の「家長」

※宣維没時、幸千代（宗衍）は3才

③伏見宮家出身（ほかの松江松平家正室は大名家出身）

・松江市における天岳院

松江市整行列：天岳院嫁入りを契機にはじまるという伝承【日本歴史地名大系】

松江大橋の擬宝珠：天岳院が京都より持参した嫁入り道具【史誌】

松江市京店通り：天岳院嫁入りに際し庇を京橋三条通に模して長くしたのが由来【史誌】

→③の宮家出身という出自が強調される

実際には天岳院は松江に一度も足を踏み入れていないので、史実としては？

●幕府と天岳院

【史料2】「雲州松江秘事」（『松江市史史料編6近世II』2013年）

松平左近将監：松平武元（老中）

松平兵部大輔：松平宗矩（福井）

松平左兵衛督：松平直常（明石）

松平大和守：松平義知（前橋）

※宗矩・直常・義知は越前松平家一門

【史料3】『徳川実紀』享保16年11月19日

【史料4】「天岳院遺言書」『松江市史 史料編8近世IV』掲載予定

※元文3年（1738）と推定

将軍家の威光が天岳院を通じて幼少藩主の権威までも高め、

危機的状況下で家中統制に効力を発揮する構図

「公辺」（幕府）との関係を取り仕切ってきたというプライドと責任感

【史料5】「天岳院よりお尋ね書」『松江市史 史料編8近世IV』掲載予定

※享保18年（1733）と推定

家老も家中統制に天岳院の権威を利用。ただし表向への関与は禁止

吉宗の意向を背景とした天岳院の自制

●宗衍と天岳院

【史料6】「松江藩江戸御用状留」（島根県立図書館蔵御徒文書）

※宗衍幼少のうちは基本的に奥にて天岳院や女中が養育

【史料3】「天岳院遺言書」日常生活、家臣の性質、縁辺や側妾の決め方など詳細に記す

→幼少藩主を養育する責任感。母子の密接なつながり

宗衍の孝行を伝えるエピソード【史誌】

●天岳院と朝廷・伏見宮

【史料7】「松江藩江戸御用状留」剃髪後も藩内の呼称は「宮様」

【史料3】「天岳院遺言書」実家（伏見宮家）への助力を依頼

天岳院は将軍家縁者としての立場を生かし、「御家の危機」に対応

明治以降、朝廷とのつながりを捜す中で捉え直されたものか

●引用文献

・長野ひろ子『日本近世ジェンダー論』（吉川弘文館、2003年）

・松崎瑠美「大名家の正室の役割と奥向の儀礼」（『歴史評論』747、2012年）

・『松江市誌』（松江市、1941年）

一 御奥方御法度之儀宇都野九郎右衛門中根仁左衛門柳澤孫左衛門山高三左衛門長田理兵衛鈴木奎之助横山藤左衛門大久保金兵衛伊東新五左衛門本多十藏此十人之内二人ニ而一日一夜ッ、相勤之萬事善惡之儀可申付之若背御下知不屈之族於有之ハ無用捨可申上之令遠慮於不申上ハ十人ノ面々可爲曲事諸事本多美作守伊澤準人正北條右近大夫渡邊丹後守可有相談事

附 四人ノ衆不在合差當儀有之者五人ノ御留守居番江可相談事

一切手御門之儀申刻以後者不可有出入勿論手形なくして女上下共ニ一切通すヘカ
らす但無據子細あらハ申刻以後たりともあふみおかのおさしハ令類無ニヘおき手
形相濟候而通ヘし幕六ノ通に於てハたゞ手形之上斷あり共出スヘからざる事

附 夜中ニ自然御用あらハあふみおかのおさし此三人之内より十人ノ番頭當番
人手形を以相斷ヘし切手御門之外ノ御門者五人ノ御留守居番江申斷之御留守
居番より久世大和守内藤出雲守土屋但馬守此三人之内當番之差圖を請ヘし切
手御門ハ五人ノ御留守居番當番ヘ申斷之其上御留守居番より切手御門番頭ヘ
相斷通スヘき事

一 役人之外奥ノ御臺所江不可參總而十人ノ面々從番所奥ヘ男一切不可出入御留守
中ハ掃除をもいたすヘからざる事

附 男子七歳までハえめ戸の内ヘ入申ヘき事

一 奥方御用之儀あふみおかのおさし以書付御表使江渡之十人ノ番頭當番ヘ相達御
用調ヘし但三人ノ女中不在合時ハ貳人にて書付出さるヘき事

右可被相守此旨者也依執達如件

萬治二年九月五日

條々

一 萬おもてひきの御用大猷院機御條目并に此たびせいの前書にも有之通相まも
られ一切かまひ申さるヘからすもちろん御前ヘ申上らるの儀もかたく無用たる
ヘき事

一 御臺様御爲よきやうに萬相心得らるヘしえかれども當座御意に入後にさゝわり
になるヘき事者申上らるヘからすもしさやうの人あらハ老中江申さるヘき事

一 諸大名同内儀かた公家門跡御はたもとのめん／＼出家町人總してたれ人ニよら
す御前におゐてとりなしたてそしよつかまじき儀相たのまれ申上さるやうに御
そばちかき面々つね／＼かたく申渡さるヘき事

(中 形)

右條々かたく相守らるヘしもし違背のどもからわらハ御せんさくの上急度くせ事
に仰付らるヘき者也

寛文十年二月廿二日

川矢岡於

崎島野梅

殿殿殿殿

雅 豐 美 大 但

樂 後 濃 馬

頭 判 守 判 守 判 守 判

【表2】家重・比宮結納祝儀(江戸幕府日記)

送り元	送り先	品	使
吉宗	家重	二種一荷	酒井忠音(老中)
	比宮	二種一荷	女中
	天英院(家宣室)	鮮肴一種	側衆
	月光院(家継母)	鮮肴一種	側衆
	瑞春院(綱吉側室)	鮮肴一種	留守居
	養仙院(綱吉養女)	鮮肴一種	留守居
	竹姫(綱吉養女)	鮮肴一種	留守居
	法心院(家宣側室)	鮮肴一種	留守居
	蓮淨院(家宣側室)	鮮肴一種	留守居
	壽光院(綱吉側室)	鮮肴一種	留守居
	右衛門督(のち田安宗武)	鮮肴一種	側衆
	小五郎(のち一橋宗尹)	鮮肴一種	側衆
	岩宮(松平宣維室)	鮮肴一種	女中より文使

【表1】松平宣維・天岳院略歴

元禄11年	1698	江戸青山屋敷にて宣維誕生
元禄12年	1699	京都にて岩宮(天岳院)誕生、父伏見宮邦永親王
宝永2年	1705	宣維家督相続(8才)
正徳2年	1712	宣維元服
正徳4年	1714	宣維初入国
享保5年	1720	幻体院(佐竹義処女)と婚姻
享保6年	1721	幻体院没
享保7年	1722	宣維と天岳院の縁組決定
享保9年	1724	天岳院江戸下向、婚礼
享保14年	1729	男子誕生(幸千代、後の松平宗衍)
享保16年	1731	5月、天岳院妹比宮、徳川家重室となるため江戸下向
享保17年	1732	享保の飢饉
享保18年	1733	享保の飢饉
元文3年	1738	天岳院没

史料 4

松平幸千代が母天岳院めされ
て見え奉る。 姫宮の御かた御姉妹の御事なれば。とく
にもめさるべかりしが。事しげきまゝ。けふまで延引し給
へり。此のちはいく度もまうのぼるべし。かつ幸千代幼年
のことなれば。よろづの事こゝろつくべしと面命あり。や
がて 姫宮に陪せられて御餐應をたまはる。(日記、年
録、家譜)

史料 3

幸千代様

一 享保十四己酉年

五月二十八日於江戸御誕生

御母公岩宮様

一同十六辛亥年

九月五日宮様江御腰氣爲御尋、上使外山殿御出之節
殿様江上意有之。 姫宮様より御難小人形被遣之、
十月十三日御家督無相違被仰付之旨、松平左近將監
殿御宅ニ被仰渡之、御名代松志摩守様、十月十五
日松平部大輔様、松左兵衛督様、松大和守被御登城
之処、御用之儀候間御居殘被成候様ニ被仰出、于
時大和守様御不快御礼廻無御登城
右御両人様へ御老中御列座、左近將監殿被仰渡候
趣如左

松平幸千代幼年之儀二候間、何處被申合諸事仕置等
之事も可被附心候、重千仕置等之儀も何處被致承知
候上申付候様ニ有之可然候、天岳院訳も有之付而旁
以申達候